

新型コロナウイルスと人権

今年は新型コロナウイルス感染症が世界各地で猛威を振るい、多くの人が感染し、また経済も大きなダメージを受けました。人の移動が制限され、さまざまな社会活動も延期・中止・自粛になったことで、普段当たり前にできていたことができなくなり、皆さんも少なからず影響を受けたことと思います。また、感染拡大による差別やいじめが社会問題化しました。



そんな中、心温まる出来事もありました。

♡新型コロナウイルスのクラスター（感染者集団）が発生した高知市の知的障害者支援施設「あじさい園」で、「頑張れ あじさい園」と励ましの言葉をしたためた、黄色い2本の応援旗が正面玄関に設置されていました。あじさい園理事長は、「感染者を出してしまい、後ろめたい気持ちもありましたが、応援旗を見て心が安らぎました。」と語っています。また、感染発覚後に30件ほど寄せられた電話も全て励みだったそうです。



♡全国で唯一、新型コロナウイルスの感染者が「ゼロ」だった岩手県で、初めて確認されたのは7月末。県内1例目として発表された男性が勤める会社には直後から、中傷の電話が相次ぎました。同じ人から何度もかかってきたり、30分以上話し続けられたり…どう対応していいかわからず、電話を取るのが怖いと言う社員もいました。

顧客に安心してもらうため、感染した社員は発症してから顧客との接点が一切ないこと、濃厚接触者の社員も全員陰性であることなどを記した説明の文書を、県内の数千世帯へ送りました。



その二日後、営業所に匿名でフラワーアレンジメントが届きました。小ぶりの赤い花が咲いていて、添えられたカードに「勤め先に届くのは中傷の言葉ではなく、花だと思いました。」と書かれていました。

医療従事者や高齢者、治療を受けている人とその家族など、みなさんそれぞれの場所で感染を拡大しないように頑張っています。この事態に対応している方々をねぎらい、敬意を払いたいと思います。そして、「自分も感染者になるかもしれない」と認識することも重要です。

私たちの誰もがいつい感染者等と遭遇したり、差別する可能性があります。私たちの過度に恐れ、遠ざけようとする心が、差別につながります。差別する大人の姿を子どもたちも見ていんだということを一人ひとりが認識しましょう。そして感染した人や、周囲で働いている人たちに、差別ではなく、ねぎらいの言葉とエールを送り、共にこの危機に立ち向かっていきましょう！



※人権特集は、人権週間（12月4日～10日）にちなんで、毎年12月号に掲載しています。
お問い合わせ／人権啓発広報委員会 ☎880-6569

特定の人・地域・職業などに対して「危険」「ばい菌」といったレッテルを貼る心理によって差別や偏見はおこります。



※日本赤十字社ホームページより引用